

学会・医師会・医療関係者			
	ガイドラインの改訂・利用・普及	コンセンサスGLからEBMGLへ(全ての情報をGLを基に)	
	治療の均てん化①	専門医の育成と非専門医へのガイドラインによる情報提供	
	治療の均てん化②	住んだ地域、受診した医師による不利益が無くなるように学会との連携によりGGLに基づく治療を	
	研究の促進	疫学・基礎・臨床研究の促進と、その成果の診療・治療、創薬まで(新規性がなくとも)	
	非専門医向けの講習会	学会の専門医と協力して、最新のGLによる診療知識を	
	最新のGLに基づく治療を	そうでない治療をするときには、患者が判断できるような説明を	
	記入した学校生活管理指導表の責任を	適切な管理指導表による、栄養状態の確保等と学校への過度な負担の軽減	
	災害時の対応	東日本大震災時の災害マニュアルの利用と普及(日本小児科学会制作)	
学校・幼稚園・保育園・学童等			
	子どもを預かる職種は本人・親の不安に応えるような知識を学んで		
	設置者、管理責任者は学ぶ機会を作り、子どもの命を守れる知識をもてるようにして		
	クラスメイトへの疾患の理解を	紙芝居、パンフレット、DVDなど、既存の物の活用も視野に(日本学校保健会等)	
消防庁			
	エピペン携帯する子の把握と搬送先の確認	学校・幼稚園・保育園・学童保育等との連携	
	初発発作の子のために	救急車へのエピペンの搭載と救命士の有資格者を増やして	
地方行政・保健所等			
	今の治療を学ぶ・伝える場を作って	保健師自身も、まずは新しいGLを学んで。患者・家族の信頼できる情報の確認先の一つになって	
	最新のGLに基づいた情報を学び伝えるのは個々の医師の治療の批判とはならないはず。		
管理栄養士・栄養士等			
	食物アレルギーの知識を資格要件に	栄養士学会とアレルギー関連学会との連携。学校・保育園・学童や外食産業でも新しい制度に	
	有資格者の学ぶ場の提供を	学会・講習会やアレルギー専門管理栄養士も視野に	
食品製造関連企業等			
	食品成分の正しい表示を	伝聞に基づかずに、科学的な、新しい知識で。	
厚労省	古い知識のまま(過剰な除去・発作を起こす)等で患者を診ることが無いように。疾病分類にアレルギー/アナフィラキシーを。禁煙や治療の推進と実効ある分煙徹底		
消費者庁	制度の遵守と違反への適切な指導・罰則。適切な見直しを。		
文科省	医師の養成課程の充実と国家試験にアレルギーを。研究費を新規分野アレルギー治療の研究にも。		